
欲望のままに

ふにう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
欲望のままに

【Nコード】
N3951Z

【作者名】
ふにう

【あらすじ】
ここはごく一般的なVR・MMOの世界
私利私欲を求めて、現実からかけ離れた世界へ、新たな料理、暴力を求めた兄妹が旅立っていった

10 当日

ここはごく一般的なVR・MMOの世界
VR・MMOとは、筐体に入ってネットゲームをすることだ
PCとの違いはリアル差が一番目立つところだろう

..... 当日

「兄者よ、私もやるぞ」

妹のリンはそう行つて、財布の中から銀行カードを抜き取り、その日のうちニVR筐体を一台買ってきたのだ

もちろん暗証番号は教えていないはずなのだが・・・

「兄者の頭では、生年月日を覚えるのが精一杯だろ」
まさにそのとおりである、言い返せないのが悔しい・・・

いい忘れてが、俺の名前はカズキだ
まあどうでもいいんだが・・・

「んで、もうすぐ始まるが、職業はなんにするんだ？」

このゲームは職業という枠がない、基本的になんでもできるのである
なぜ職業を聞いたかというと、装備で大体の職業っぽいことができるのだ

剣と盾なら前衛で壁ができる、杖を装備すれば魔法が使える、弓を
持てば後衛支援ができる、回復職もやろうと思えば杖さえ持てば誰
でもできるのだ

職業固定はされていないが、武器は使い続けることにより武器スキルが上がっていくのだ
しかもこの武器Lv上限が無いらしい・・・
つまりイロイロ試すより1つの武器を鍛えたほうが、他より強く慣れるのだ

ちなみになぜそうなるかというと、Lvというものが無いからだ
Lvという概念がないため、ステータスは武器・防具・称号・スキルLvで強さ決まる

例えば、【弓30 片手剣30】のプレイヤーが居るとしよう
同じ時間剣だけを上げた場合【剣50】になるのだ

近づけさえすれば、【片手剣30】では【片手剣50】にはかなわない
プレイヤースキル
PSにも左右されるが、基本的には勝てない、罅迫り合いになったら簡単に押し切られるだろう
しかし、【弓30】を生かせれば、正気はあるのがこのゲームの面白いところだ

「戦士がいいな、暴れたいし・・・、兄者は？」

この一族は本能に忠実だ

「料理人だな、魔物が食いたい」

このVR・MMOでは味覚まで再現されている・・・らしい（公式参照）

このことが分かったその日に俺はVR筐体を買に行き、〇が始まる前から予習を欠かさなかった

「流石兄者、料理の腕にきたいします」

リンは言い終わるとVR筐体入っていった

「さて、楽しみだな・・・」

すでにヨダレで服が濡れているのだが、着替えているじかんはない

【始まりの街、アルトア】

エルリア大陸の真ん中にある国で、プレイヤーの初期地点だ
ここから冒険が始まるのだが・・・

「（なんとという喧騒、さすが始まりの街だな）」

「PT募集ちゅう、後衛火力のかた@2」

「PTあいてませんか、壁しぼうです」

「ここで叫ぶなよ、ログが貯まるだろks」

「ツングレクター、（。）ノ」

「PTはいりまゝす」

「ぱんていハアハア」

「寝るコマンドここで使うんじゃないー！#」

すごい速度で左下にある会話ログが流れていく

実際に会話したことがそのままログに残るのである

これにより、GMコールで犯罪を未然に防ぐとか何とか

「（さて、出発するか）」

クエストを受けるでもなく、妹のリンとPTを組むでもなく、まっ
すぐ町の外に出た

ウチの家系は、本能に忠実・・・もといわがままなのである
自分の意見は押し通してこそ、人生とか親父も言っていた

つまるどころ家族全員ソロリストだ、よく家庭崩壊しないものだと
思うぞ

「さて、まずはドイツから料理してくれようか・・・」

装備は片手剣、予習（公式参照）によると包丁を使う前提のスキル

が、【片手剣10】だ
つまり、【片手剣10】似到達しないと料理が作れないのである
包丁を使わない料理ならできるが、あまりにもレシピが偏る
「まずは【片手剣10】だな、」
職業固定はされていないが、武器は使い続けることにより武器スキルが上がっていくのだ

手近にいたウサギのような敵を切り裂いた
倒したあと、モンスターは霧のようになって消えていった
アイテムは自動的にイベントりに収められるようになっていた

「肉だ・・・ジュルリ」
イベントりに肉があった
10匹くらい倒したので、多少は素材も集まっている

柔らかいの毛x5
うさぎの肉x1
うさぎのしっぽ（アバター）

イベントリから1つ肉を出してみた
頭くらの骨付き肉が空中から地面に・・・
「っと、あぶねえ」
落ちる前に回収した

もちろん食べた、生で
結構ジューシーで意外といける
「焼いたほうが美味しそうだな」

10数匹倒したときに機械音がなった

《ポーン、【バシップスキル：片手剣】を取得しました》

《【スキル：スラッシュ】を覚えました》

バシップスキルとは、習得していれば、常時効果が発動するスキルである

基本的にはバシップを上げればスキルを覚えるのだが、バシップを複数上げること覚えるスキルもあるらしい

《バシップスキルは5個までしか付けられません》

《取消の場合は、始まりの街スキルセンターまでお越しく下さい》

ああ、5個までだったな・・・

つまり、【片手剣】で1枠埋まってしまうのは确实

あとは料理で必要なスキルを探さないとな・・・

名前 カズキ

武器 スチールソード（片手剣：耐久度99/100）

頭 なし

鎧 旅人の服（初期装備）

腕 なし

腰 旅人のズボン（初期装備）

足 旅人の靴（初期装備）

アバター なし

バシップスキル 【片手剣Lv1】

アバターには、かなり色々付けれるらしいのだが……
うさぎのしっぽは流石にないわー
いや、女の子がつけるならむしろ”あり”なのだが、俺がつけるの
は流石に、な

1 0 当日（後書き）

「意見、感想くれると嬉しいです

2 バシップ自動販売機（無料）

ウサギ狩りも人が多くなってきたので、街に帰ることにした

【成果】

片手剣Lv1 10

柔らかい毛x15

うさぎの肉x3

獣の皮x2

スチールx2

うさぎのしっぽ（アバター）x1

ようやく包丁を持って、料理が作れると意気込んだのはいいもの
・・・

「そっぴゃあ、包丁ってどこで入手するんだ・・・？」

料理職のwikiには作り方しか書いてなかったしなあ

町を彷徨さまよっていると、大通りは露店街になっていた

かなりいっぱい露店が並んでいるのだが、買う人も大量だ
聞いてみるしか無いな・・・、武器売ってる人はどこかねえ

「すいませーん」

「はいはい、初心者用武器いろいろ揃ってるよ」

グラマーなお姉さんだなー

「包丁って、無いですかね？」

「包丁か、まだ作ったこと無いんだよね（ノ、）

なんなら作るうか（*、）？」

このVR・MMOは武器ドロップが無い、基本的に武器防具は鍛冶屋（鍛冶バシップスキルを持つている人）が作るしかないそうだが、初期武器だけは店売りがあるのだが、初期武器を買うくらいなら、おなじくらいの経費で作れる武器を鍛冶屋露店で買ったほうが性能がいいらしい

作るための鉱石はモンスターか、鉱脈で採取できる

雑魚は低確率でボスは高確率で鉱石を落とす

鉱脈は100%何かしら1つ出るようだが、鍛冶屋にしか掘れない

「お願いできますか？」

包丁がないのでは仕方ないしな

「お代が1kくらいかかるけどええか？」

初めに1000b配布されているので問題ない

「はいよー、30分くらいしたらまた来てやー」

お金の単位は

1G^{ギガ} = 10000M^{メガ} = 100000000k^{キロ} = 100000000000b^{バイト}

たまに日本人は、〳万円計算する人がいるのだが、かなりめんどくさいと思うんだ

今ではこの単位が基本になっているのだが、初心者はたまに〳万円とか使おうと計算が狂ったりする

お姉さんの話によりと、初期バシップスキルを売っているNPCがいるらしいので、包丁が出来上がるまでに行つて見ることにした

「どう見ても自動販売機だよー・・・」

1台の自販機に人がかなり群がっている
バシップスキル5個しか装備できないので、順番が回ってくるのは
そんなに遅くはなかった

「【片手剣Lv1】も売ってたんだな・・・」

初期装備で何匹か狩るとそのスキルを覚えることができるが、買っ
てもいいらしい

このNPCは【片手剣】【両手剣】【盾】【弓】【ステップ】【片
手剣10 包丁1】【鍛冶】【錬金】・・・ets

などが売っていた、無料らしい・・・
買ってから狩り行けばよかったorz

とりあえず何も付けないよりは5個バシップを埋めておくことにし
よう

【包丁Lv1】【調理Lv1】【ダッシュLv1】【盾Lv1】
【ステップLv1】

とりあえず適当に埋めた

不要なものが出るかもしれないが、無料だしな！

2 バシッポ自動販売機（無料）（後書き）

長い文苦手なので、短めをポツポツ更新していきます

3 装備

「包丁できてるよ〜、(。°。(ノ)」
俺はできた？の包丁を手を取った

「おお〜、これがココの世界の包丁か〜」

【万能スチール包丁+1・息吹 100/100】

「この息吹ってのは作者の？」

「そやで〜、ポキッと折れたら錬金術師に持ってけば買い取ってくれるで〜」

制作物は+1になるそうだ、NPC売りとおなじ価格で作れるので、断然お得だな・・・

価格の1kを渡した

ついでに素材を買い取ってくれる人を聞いたところ

「お、素材あるん？ 買い取るか(*´、´)?」

「ありがたいです」

取引を要請して、取引イベントリを出すことで、盗難を防げるようだ
手渡してもいいのだが、数が多いと入れなおすのが面倒とのこと

柔らかい毛 x 15

獣の皮 x 2

スチール x 2

うさぎのしっぽ (アバター) x 1

「しっぽキタ (。°。(ノ)!!!」
ビクッ

普通の会話なのにチャットログには絵文字が表示される・・・設定

で登録した会話にはログにそう表示されるようだ
ただし絵文字しか登録できないそうだが・・・謎機能である

「高いんですか？」

「そやね〜c の体感やと、1万匹も狩ればでるんちゃう。。(。)
?」

「結構でないんですね〜・・・」

「でも初めはみんなかるから、意外と出回ってるんよ
そのうち高くなるから取っついたらほうがエエよ？」

「じゃあしつぽ以外の残りお願いします」

「まいどあり(*´、´)(´」

柔らかい毛1000x15

獣の皮500x2

スチール300x2

「合計3・1kやね〜、ほいどうぞ。(。)(´」

「おお〜、意外と高い」

「素材系も出にくいの多いし、今が1番売れるからやね〜
お、そや、これも買わんか？」

取り出したのは、【スチールのフライパン+1：息吹 1000/1

00】

「買います!」

「1kになりま〜す(*´、´)(´」

目ざとい、息吹さんめっちゃめざとい

「ふへへへ〜、まいど〜。(。)(´」

フライパンにはどうやら【鈍器】バシップが必要なようで、自動販
売機にもう一回行くことになりそうだ・・・

名前 カズキ

武器1 【万能スチール包丁+1・息吹 1000/1000】

武器2 【スチールのフライパン+1：息吹 1000/1000】

頭 なし

鎧 旅人の服（初期装備）

腕 なし

腰 旅人のズボン（初期装備）

足 旅人の靴（初期装備）

アバター なし

バシップスキル【包丁Lv1】 【調理Lv1】 【鈍器Lv1】 【ダ
ツシユLv1】 【ステップLv1】

しかし、敵を切ったり殴ったりした武器で調理するの
かなかなか不衛生だと思っただが、ゲームだしな・・・

「壊れたらお願いできますか？」

「ええで、友登録もしとくか」（*、）？」

「よろこんで（*、）」

息吹さんのアドレスをゲットした

4 露店調理

【クッキングファイア】

地面から火柱が上がり、加熱調理できる魔法だ

魔法職の【ファイアーボール】との違いは地面指定なところだろうか

今まさにいま目の前で燃え上がっているわけで

完結に言うと、肉を焼いていた

【鈍器】を自販で買ったあと、香辛料も仕入れたので実際に焼いて
見ることにしたのだ

「ちよちよちよ、ここは厨房ちゃうで〜、(。°。(ノ」

目の前で火柱が上がる息吹さんはびっくりしていたが、作れる時に
作らないのは料理人の恥(謎)

【うさぎの丸焼き：体力1% 力+1% 空腹度+50%】×2

空腹度とは、なくなると餓死するのだおよそ100%減り、
戦闘をしていると倍速で減る

「あ、食べますか？」

「(* ´ ´ (ジュルリ」

2人で昼飯にした

「うんめえ(。°。(」

香辛料も使ったので、意外と美味しかった

「あの、すみません、料理売ってるんですか？」

道端で肉を食べていると、なぜか周りから注目されていた

「材料があれば作れますが・・・なぜに？」

理由を聞いたところ、昼過ぎで腹は減るのだが、料理人は狩りをしていて売っている店が殆ど無く、NPCは料理を売っていない、水は売ってるのだが・・・

料理を作る人の店はムダに高いらしい
そりゃ空腹度を回復させれるのは【調理】スキルを持っている人だけなわけで、戦闘職や、鍛冶屋が使わないスキルを5スロットしかないバシツプスキルに入れるはずもない

よって、高くても買うしかない状態がまさに今だという話だ

ふむ・・・これはいけるか？

「材料と100bでどうですか？」

「え、それだけでいいんですか？」

飯1つで2kはするらしい、すげーぼったくってるな、どごぞの料理人

「スキル上げついでですんで、良いですよ」

そう、スキル上げが目的なのだ、儲かることなど二の次だ

1時間後

俺は、今、戦争の中にある・・・

そう、料理戦争だ・・・

つまるところ、焼きまくっているのだ、肉を

調理方法は調べてあったので、ある程度の食材ならステータスアップ効果をつけることが可能だ

うまく調理できると、ステータスがアップする、2時間程度だが・・・

そして、俺は現役の料理人

失敗する要素はない

むしろMPが枯渇し欠けて【MP回復POT】を材料費に追加したくらいだ

そして、安いのが評判になり、昼からずーっと作り続けていたのだ
7時間は余裕で作り続けられたのも、リアルでの料理人としてのP^{フレイヤ}
S^{スキル}のおかげかな

【包丁Lv12】ステーキの注文で

【調理Lv27】調理全般

【鈍器Lv20】フライパンで焼いたり、肉を空中で叩いたりしていた（ひっくり返す）

【ダッシュLv1】

【ステップLv1】

すげー上がった、隣の息吹さんは おろ（）。。（）おろ していた

隣で作っていたので武器もよく売れたそうだが、よかった迷惑にならなくて

便利なスキルも増えた

【サイコロカット】肉を消滅させずにステーキ肉に出来ます

【鍋召喚】鍋を召喚します、鍋はイベントリに入っている物が召喚されます。鍋はイベントリに1つしか入れられません

【フライ返し】フライパンを叩きつけ、ひっくり返します

スキルは対象物を意思にして、スキル名が意識を集中させることで発動できる

スキルを発動すると強制的にモーションを取るので、肉が空中を数m飛んだ時は驚いた

威力を調節していつも通りに調理すれば問題はない

というか”スキル名を言っていないのに”スキルが発動することがかなりあった

息吹さんによると「無意識操作」らしい

似た動作をすると無意識に発動してしまうそうだ

マスターすると、スキル名を言わずに発動できるのが利点らしい
対人戦の必須スキルとかなんとか

台所はまだ無いので、フライパンの上で調理していたわけなんだが・

フライパンが壊れた

まな板にも使っていたので、結構消耗する

10個作れば耐久度が1減る、しかしこれは新品だった
つまりそれくらい調理したのだ

主にうさぎの丸焼きが多かったので、【サイコロカット】を覚える
までステーキを作れず【包丁】のLvもあげられなかった

【サイコロカット】を使わずに生肉を切ろうとすると消滅するのだ

何個か食材無駄にして、お客様と食材に土下座したorz
お陰で【包丁Lv2】で【サイコロカット】覚えるまで、泣きそう
だった

(主に罪悪感ではなく、調理方法が少なくなること)

所持金 23,600b

【包丁Lv12】 【調理Lv27】 【鈍器Lv20】 【ダッシュLv1】
【ステップLv1】

4 露店調理（後書き）

そろそろ妹のリンをださないと忘れそうな気がしてきました

5 朝の露店街

2日目の朝7:00

「おはよ〜、(〜)〜」

息吹さんの隣で昨日と同じように露店を再開した
昨日隣で料理露店して仲良くなった鍛冶屋の人だ
朝は弱いのか、すぐには制作せずに商品を並べている

この時間帯は人は来ないと思っていたが、廃人の帰宅組が結構来ていた

徹夜で狩るとか、若い頃はできたが、今は夜は寝て朝起きる習慣が現役料理人として根付いてしまっていた

器用に指でフライパンを3つ挟んで同時に焼けるようになっていた
息吹さんは(°。°)な顔をしていたが、今は鉱石買取と武器注文で急がしそうだ

朝方帰還組

町に帰って武器注文・修理

飯

寝る

この時間帯からネットゲーでご飯を作っている所なんてココくらいだ
らう

なぜかというと、生産NPCの比率がかなり少ないのだ
そりゃ、狩りしたほうが楽しいって人のほうが多いだろう
しかも単純作業を延々と続けられるかが求められる生産職だ
仕事なら耐えられても、ゲームで仕事のようなことをするのか・・・
といわれれば少ないのもわかる気がする

それゆえ人気がない、ただし需要はある
飯を食わねば餓死するし、武器は初期装備しかNPCは売ってない
修理も製造もプレイヤーしかできないのだ当然といえば当然か

「すみません、武器注文お願いします」

「あいあい、素材は持ち込みですか？（*、）？」

「これ」

「うひょ、鋼鉄やん（・・:）」

「大剣・・・ほしい」

隣を見ると、エルファバターの三つ編みのおさげ（金髪）の子が武器を見ながらうつとりしていた

「やったるで〜、（。・。）ノひゃっは〜」

鉱石にも等級があり

スチール 鉄 鋼鉄 ダマスカス ミスリル 神鉄

など、ほかにもいろいろあり、鉄製を作るには、スチール製を何本も作る必要がある

しかも、敵がドロップするのは鉄までなのだ

あとは、洞窟などで掘るしか無い・・・惚れるのは【鍛冶】バシッ
プ持ちしかできないのだが

ただし例外があり、ボスはレア鉱石を100%ドロップする

鉄商品は、まだ2日目なので少ない
息吹さんは持ち込み依頼で仕事をしていたので、その分L.V.が上が
っているそうだ

「 〃 〃 〃 〃 ゴ*´、´（ノあびゃー」
息吹さんは店をたたんで工房へ走っていった

6 リンの1日(妹のリン視点)

気がつけば1日中狩っていた

「もう、朝やん」

すっかり兄者のことあにじやも忘れ、狩りに勤いそんでいたからだ

しばらく進んでいると、ゴブリンの集落が見えた

大剣を握る手が力を増し、口元がほころぶ

『ダツシユ』

三つ編みにしたおさが風になびく

一気に加速して、土煙を巻き上げながらゴブリンの集落へ突貫した

「最後のデカイの、なかなか強かった／＼」
町の戻ってきたリンは戦闘の余韻にひたっていた

【戦果】

獣の皮×65

狼の肉×5

スチール×5

鋼鉄×2

エルフ耳アバター：索敵(小)が可能

(【搜索】バシップで覚えるスキルより索敵範囲が半分)

いい店を見つけた
朝から開いているみせでも、人きは目を引く品揃えだ
まだ2日目なのに、鉄製の武器を売っている

鍛冶屋の場合【鍛冶】 【鈍器】 【採掘】
服屋の場合【裁縫】 【鈍器】 【採掘】（鎧を作るため）
が必須となり、採掘のために闘用スキルを入れるのが掲示板での共通見解になっていた

【採掘】は【鍛冶】 or 【裁縫】と【鈍器】バシップがスキルに入っていないと覚えられないし、機能しない

【採掘】のない生産キャラにPT募集など無い
なぜなら、鉱脈から鉱石を100%1つ採取できるからだ
PT募集でも【採掘】募集が結構あるほど鉱石は高い
特に鋼鉄以上はムダに高い

【鈍器】ばかり上がるので火力には申し分ないが
補助バシップを入れないと、戦闘ですぐ死んでしまうのが難点なのだ

でもこの店は、鎧も売っていたのだ

つまり最低でも、【鍛冶】 【鈍器】 【裁縫】 【採掘】

ココまでしてしまうと、

1つのバシップしか使えなくなる

つまりPTが組めないため、鉱石を掘らずに町で作り続けるような
ことをしない限り、スキルLvが上がらない

堀に行っても戦闘ですぐ死ぬため、足手まといなのだ

「すみません、武器注文お願いします」

この店なら・・・

「あいあい、素材は持ち込みですか？（*、）？」

「これ」

「うひょ、鋼鉄やん（・・；）」

鋼鉄は鉄武器防具を精錬してスキルを上げないと、精錬しても形が変わらない

むしろ叩いたほうがダメージを受ける

「大剣・・・ほしい」

「やったるで、（。°。°）ノひゃっは」

隣からは良い匂いがした

朝飯を食べてなかったので、空腹度が一桁だ

（狩りに出た時料理屋なんてなかったもんなあ・・・）

「・・・兄者」

兄がいた、すげーこっち見てる

料理していることは分かっていたのだが、こんな所であうとは思ってなかった

てっきり野生化して生肉でも食ってるものかと・・・

味がリアルらしいこのゲームは現役料理人の兄からすれば

”生肉を食べても、毒になる時はあるが味見ができるし死なない”
と言っていた、生肉食うなし、生肉を・・・

くきゅ〜・・・

臭いのせいで、すごくお腹が空いた
空腹度が5%を切っている

そつえばログアウトしてないけど・・・まあ死にはしないよね・・・
・？

名前 リン

武器1 【スチールの大剣・音無 3 / 100】

武器2 【スチールのガントレット・音無12 / 100】

頭 なし

鎧 【スチールアーマー・てるてる】

腕 なし

腰 旅人のズボン（初期装備）

足 旅人の靴（NPC売り期装備）

アバター：エルフ耳（索敵小）

バシップスキル【両手剣Lv30】【重装備Lv28】【パライル
v15】【ダッシュLv21】【ジャンプLv5】

6 リンの1日(妹のリン視点)(後書き)

重鎧でジャンプすると全然飛べません・・・なのでLvが低いです
露店で鎧と武器を買うまではジャンプしてたので多少上がってます

まだ2日目だからLv修正して下げようかな・・・

7 ステップとダッシュ

「兄者、飯、兄者のツケで」

1日ぶりにあった妹のリンは、どうやら食料も持たず狩り続けていたらしい

俺のつけてったことはどうということなのだ・・・

妹に目の前で餓死されてもいたたまれないので、予備の材料で調理することにした

「今から寝るのでモグモグ、昼になったらムシャムシャ、起こしてくださいパクパク

あ、友録申請しますねゲフー」

俺の露店は立ち食いが基本なのだが、チャーハンに顔を突っ込みながら喋るのはどうかとおもうぞ妹よ・・・

「狩りに行きましょう」

ということ、出来立ての両手剣を試しに行きたいらしい

「少しまで、この列の注文が終わったらいくわ」

「いや、がんばっちゃった（ノ、）」

「あ、ガントレットも・・・ありがとうございます

料金は、兄者のツケで」

ツケって・・・

「兄者、私はお金が尽きたのです
さっさと財布になってくれないと息吹嬢が困ってます」

「兄弟愛やわ〜（*、、）」

・・・

【鋼鉄の両手剣+1・息吹 100/100】

【鋼鉄のガントレット+1・息吹 100/100】

素材系を全部息吹さんに売払い、それでも足りない分は出してやっ
たよ・・・うん

「実は、ゴブリンの集落の奥に洞窟があったのです」

「f m、んじゃそこに行くか」

洞窟の最深部には、ボスが居て結構なレアを落としてくれる

「洞窟か〜、ええねえ〜（*、、）」

「鉱脈もありそうだったので、一緒に行きませんか？」

「ん〜・・・イグ〜、（。、）」

そういうことになった、俺は確定なのね・・・

行く途中【ステップ】を【採取】に付け替えた

何度か使ってみたが、数m横に飛んでしまったりするので、料理人
としては使いづらかった

代わりに【ダッシュ】を短距離移動スキルとして使うようにしている

スキルは基本てきに”決められた動作を強制的に行う”事ができるものだ

なので、スキルを使わなくてもそれを表現することが出来ればMP軽減にもなる

だが、【ダッシュ】を後ろ向きに発動すると、いきなり90度回転した状態に強制されるのだ

これを応用して、ちょこつと【ダッシュ】で向きだけを瞬時に変えることを思いついたのだが・・・

「スゲー酔うな、この動き」

ちなみに今は、洞窟の中で戦闘中だ

「兄者、今のはどうやっているのですか？」

コプリンの攻撃を【ステップ】ではなく、いきなり横に体がずれずに戦っているのだ

「左ダッシュ 右ダッシュって動けば、左にズレることができろぞ」

ゴプリンの攻撃をバグ移動？しながら避ける俺がいたガガッて感じなのだ、ガガッつと移動する感じなのだ

「なるほど・・・【重鎧】で【ステップ】はほとんど動けないので【ダッシュ】はよく使っていたのですが・・・試す価値がありそうですね

でも、さっきからスキル宣言してないですよね？」

大剣でなぎ払い、突きさし、蹴散らしながら、ほとんど1発で仕留

めている

「それはな、スキルを宣言したとゲームが認識すればいいんだ、意思操作って言ったっけ？ 結構便利だぞ」

俺は避けながら包丁で刺す

首、心臓などの急所に刺せば、即死判定が出るのだ

見た目はブレるように横滑りしながら包丁で急所を刺していくシュールな光景

「カンツ、カンツ、ポロツ 鉾石うめえ〜（*、、）」

先頭をリン、真ん中に息吹さん、後ろを俺が守る感じで鉾脈にピッケルをアヒヤ顔で乱打している息吹さんを護衛しながらすすんでいる
鉾脈は輝いていてすぐわかる、掘ると輝きがなくなりどこかへ鉾脈が転移するようだ

戦法は結構単純で、まずリンに突っ込んでもらう

洞窟はあまり広くないので、ゴブリンをよこに3匹も並べたら通路が埋まる

それを利用して、リンがガードしたら伊吹さんに攻撃してもらおう
息吹さんはこう見えて、結構な攻撃力なので意外と戦力なるのだ
後ろは基本的に数が少ないので、3人PTくらいのモンスターが多いこの洞窟だと楽に進めた

カズキ

【包丁LV25】 【調理LV31】 【鈍器LV24】 【ダッシュLV12】 【採取LV3】

リン

【両手剣LV31】 【重装備LV29】 【パライLV17】 【ダッシュLV22】 【ジャンプLV5】

息吹

【鈍器LV32】 【鍛冶LV31】 【重装備LV5】 【裁縫LV24】 【採掘LV2】

7 ステップとダッシュ（後書き）

洞窟に来る途中で採取しちゃってます、抜け目無いですね

息吹さんは重装備で頑丈ですが、足が遅いです

攻撃に参加するのはリンが罅迫り合いや、ガードしてる時くらいになりそうです

カズキと攻撃するといきなり横スレしてくるので危ないようですw

8 ドナドナ

私は奴隷、現在馬車でドナドナ中のピッチピチの14歳女の子

その日私は信じられないものに出会った

ドナドナ中の馬車は、運悪くモンスターに襲われた

糞尿の立ち籠める匂いで奴隷馬車は狙われやすい
それは仕方の無いことだった

「護衛兵！何のために雇ったと思ってやがる！！
クソッ俺だけは守れ！」

奴隷商人たちの声が聞こえてくる

「おい、でろ」

ひとりの奴隷が馬車から捨て落とされた
落とされた男は、狼のモンスター（ウルフ）の群れに襲われて食わ
れた

車体が大きく傾いた

死にかけていたものを優先的に落としながら、それでも馬車は逃げ
切れなかったのだ

馬車の車輪が壊され、奴隷の檻が放り出されてしまった

口を切ったのか血の味がする・・・
ああ、死ぬんだなーっと思いながら、奴隷の首輪をなでた
奴隷の首輪をつけられた者は、主人の命令無しでは
喋ることすらできない、例え魔法が使えても命令がないと意味はな
いのだ

先ほど主人であつた奴隷商人は、護衛と一緒に逃げてしまった

「しぬのかなあ・・・」

口にしたら、泣けてきた
いつも無表情にしていた顔から、とめどなく溢れてきている

ウルフ達は、次の獲物を見定め、檻を食い破ろうとしている
私はそれをボーっと眺めていた・・・

そして信じられないものを発見した

「ギャウン!？」

ウルフ達が悲鳴を上げた
少し向こうで奴隷を漁っていたウルフの首から大量の鮮血が、地面
を赤くを染め上げた

私はこう見えたのだ

マツパの変態が、ウルフの首を噛みちぎり、即死させた

2匹目のウルフは、変態の素手でマツプタツにされた

3匹目は1匹目を食っていた変態に襲いかかったが、素手で頭を鷲掴みにされ、潰された

他のウルフ達はその光景を見て、一斉に逃げていった

・・・助かった、そう思うと一気に目の前が暗くなっていくような
感覚に襲われ、私の意識は途切れた

9 ニジはどニジ？

目が覚めると森の中だった

「ちゃんと宿屋で寝たんだが・・・」

とりあえずステータスを確認するか・・・

「ステータスひらかねえ・・・」

しかもだ、脱げないはずの下着装備まで外れているのだ

つまりマッパだ

「とりあえず、着るものを確保しないと・・・」

木々のむこうから悲鳴が聞こえた

男の悲鳴だったので少しがっかりしながらとりあえず向かうことにした

え、だってそうだろ？

女の悲鳴の方が、助けがいがあってもんだろ！

到着したら、かなりやばそうだったので、戦力を把握するために【試食】スキルを発動させた

【試食】モンスターを試食することで、弱点を味から分析するといふ謎スキルだ

初見とかだと結構便利なスキルなのだが、相手が美味しくなかった時に吐きそうになるのだが・・・

1匹目の首を食いちぎり弱点を分析する

【ウルフレV5 弱点：魔法 味LV3】

不味くはない、調理にも使えそうだ

魔法は・・・かなり弱い調理用のしか使えない、このLVなら素手でいけそうだ

2匹目を素手で2枚におろし、3匹目の頭をミンチにしてやった

さすがに狼は危険を察知したのか全部逃げたようだ

「生き残りは・・・1人か」

それにしても、リアルだ

モンスターも消えないし、かなりグロイことになっている

元料理人じゃなかったら、吐くいてもおかしくないんじゃない？

檻の中で気絶している女の子はとりあえず置いて、飯の準備を

開始することにした

・・・檻アカネーンドモン

「お、目が覚めたか」

女の子が口をパクパクさせている
耳が尖っているからエルフのなのかな、妹もエルフ耳つけてエルフ
になりきってたし
結構可愛い小動物な印象を受けた

「とりあえず飯食わねーか？ あー檻こわさねーとな・・・」

んゝ・・・ん？

もしかして、【試食】できるんじゃない？

試しに檻に【試食】を発動させてみた

バキンッと音を立てて食いちぎることに成功した

【さびた鉄の檻 味L V 1 2 5】

うん、マズイ、マジでマズイ

吐きそう・・・うえ・・・

鉄の塊を地面に吐き捨てて、もう何箇所か檻の柱の上下を取ってや
ると、出ることができるようになったのはいいのだが・・・

ウルフの皮を皿がわりに焼いた肉と俺を交互に見ながらヨダレを垂らしているという、なんとも言い難い状況になった、だれかヘルプ
ミー

あ、ちなみに今はマツパじゃないんだぜ？

ウルフから剥ぎ取った毛皮腰に巻いてるしな！

どうやらこの女の子は、言葉がしゃべれないようだ何を言っても首を振るくらいしかしてこない

「くわねーの？」

と聞いたのだが、首輪を指差して、首を振るだけだった

「そのせいで、食べねーのか？」

首を縦に振る

「奴隷の首輪？」

縦に振る

ん〜、奴隷制はゲーム上やってなかったんだけどな〜・・・

悪質なプレイヤーとかにゲームマスターがつけて規制したりする時に、刺付きのでっかい首輪くらいだったんだが・・・

こっちのはずいぶん可愛いものになっている、レプリカか、とも思ったが、そんなプログラム組んだら通報ものだろう

とりあえず、出来ることは試してみよう

さっきも出来たしな

俺は首輪に【試食】を発動した

【奴隷の首輪 命令：喋るな、抵抗するな 味L V I 1 0】

近寄ったとき、なぜかかなり震えていたが気にしないでおう

10 奴隷解放？

力を貯めてるのと

本当にやるうとして、体が動かないことは似ていると思う

結果的に言えば、俺は殴られた

「いややー！ 変態！！」

ズドンッなどという生易しくない音が顔面から聞こえてきた

空中で華麗にキリモミ回転しながら、俺は地面と接吻する羽目になった

どうしてこうなった・・・

「あれ、喋れる・・・なん、で・・・」

エルフの女の子は、驚愕しながら自由に動けるのを確認していた

「そこまで元気があれば、大丈夫そうだな・・・」

やはり、女はおそろしい

女性とPTを何回も組んだことはあるが、結果的にトラブルを持ってくるのだ

不用意に近寄ると、いつもこうなっているような気がしなくもない

「ひい」

女の子が無傷で立ち上がった俺を見て腰を地面に落とした
反動で、取れかけていた首輪が地面にポトリと落ちて、黒い霧にな
って消えていった

呪いの一種か？

多分術者に呪詛返しが行くだろうが、対策を立てていない術者は居
ないだろう

「食わんのか？」

俺は骨付き肉の反対側を持って、女の子の前に差し出した

そーっと伸びてきた手が、俺から肉を奪い取った

「もしか、もしかもしか、むぐぐぐ？」

食いながら喋られても困る

「食ってから、喋れ」

そういうと、女の子は肉にかぶりついた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3951z/>

欲望のままに

2011年12月24日10時45分発行